

平成30年

新春市民文芸

新春にあたり、俳句・短歌・川柳を募集したところ、俳句の部では873人から1,267句（うち小・中学生840人から1,185句）、短歌の部では29人から77首、川柳の部では24人から70句の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。

俳句の部は加古宗也氏、短歌の部は斎藤すみ子氏、川柳の部は西尾文化協会西尾川柳会に審査していただいた結果、次の皆さんが入選しました。おめでとうございます。

入選

楳や娘にゆづるレシピ帳	一色町	中川喜代子
卒寿まで生きて悔なし年新た	永吉四丁目	小野田みよ子
兄嫁と巡る七福詣かな	つくしが丘六丁目	古賀 敦子
博士号受くと教え子初便	駒場町	信川 芳枝
連鶴の箸置に置く祝箸	上羽角町	乙部 妙子
謙虚さを宝としたし初茜	下永良町	榊原さちよ
今更に我が身愛しき初湯かな	永吉町	石川 英一
手擦れたる三方大さ歯架飾る	鶴ヶ池町	富永 幸子
賑やかに女系家族の初座敷	駒場町	石川しづ子
老人力まだまだであると五万米噛む	下羽角町	濱嶋 君江
床の間は球子の赤富士迎春花	丁田町	太田小夜子
淑氣満つとは大前のさざれ石	花蔵寺町	三浦 貞子
新春や願えば軽き抱き地藏	伊文町	原田 照恵
平穏な日々を願ひて年明る	家武町	水頭うた子
初凧や蛭子岬に鳶の笛	熊味町	蓮沼 健
手の破魔矢鈴の音さへもありがたし	巨海町	水野 謙二
離れ住む家族の絆福寿草	家武町	神取 和子

特選

厨房に男立ちおり雑煮鍋

貝吹町

磯貝きみ子

俳句



俳句（小・中学生）

かがみもちわたしのようになままるい	西野町小1年	石川 京佳
年がじょうみんなにいっぱいもらいたい	佐久島小1年	千田 咲希
佐久島だいいんどんどんお正月	佐久島小2年	勢力 大
年がじょう先生ぼくにくれるかな	八ッ面小3年	石川 冬真
ポストには犬がいつぱい年がじょう	八ッ面小3年	浜詰 和香
年賀状毎年増える友達も	西野町小3年	永谷 桜我
除夜のかねいやな気持ち追いはらう	一色中部小4年	各務 煌月
年がじょうおばあちゃんにとどけよう	一色東部小4年	荒川 美衣
年明けてなぜか気持ちいい朝の風	八ッ面小4年	畑 快空
初日の出わたしに元氣くださいいな	西野町小5年	杉浦 佑彩
今年こそみんなに勝つぞこま回し	佐久島小5年	高橋 奏翔
おとしだま母のさいふがちよきん箱	八ッ面小5年	石川こなみ
お年玉中身はいくらおばあちゃん	八ッ面小6年	石川 美玖
今年こそ大吉ひいて幸福に	八ッ面小6年	畑 沙空
年賀状紙一枚で届く気持ち	横須賀小6年	稲垣 大智
新年だ自分の心を入れかえよう	八ッ面小6年	松本 希
成績ですべてが決まるお年玉	鶴城中2年	杉浦 茉紘
お年玉じじばば毎年ありがとう	西尾中3年	小林 千紗
今はほしいお年玉より合格が	西尾中3年	板倉 僚哉
年賀状今か今かと待つ家族	西尾中3年	寺田 源
新年の目標立てて学校へ	西尾中3年	古尾 珠基



短歌



特選

さみどりの葉蘭しきたる大皿にぴんと鰭張る元旦の鯛

米津町 村上チオリ

入選

半島に抱かれ穏しき三河湾波の穂光りて初日昇り来
 新藁にて注連縄なえば仄かにも匂う宮居に準備整う
 初日の出待つ人温もる浜焚火流木の火はほのぼのと立つ
 東雲の雲間より射す初光にいくつか照りぬななかまどの実は
 激動の昭和一桁卒寿まで生くるしあわせを神に感謝す
 八ツ面、山の端おぼろに明るみて今し出で来む初日の出待つ
 新春の明るくなりゆく山の端に向かひてアクセルゆつくりと踏む
 実南天松竹梅に葉牡丹を豪華に活けて玄関みやび
 転ぶなと案じてくるる友達の声を力に除夜の鐘撞く
 柿大樹茂る草屋に住み古りて生涯をかけ守る扁額
 ふりむかぬと決めて前向く夫と居て二人で迎ふる正月樂し
 日間賀島日は落ち宿の窓ごしに知多か渥美か灯火またたく
 草引けど春の七草採らず置き母の好みの若菜粥とせむ
 亡き師より賜りし袱紗捌きつつ茶の湯始めにありし日想ふ
 農始め剪定疲れほのぼのと癒さるるなり曾孫の笑みに
 苦境にも笑顔で居れば幸せとしみじみ思う卒寿迎えて
 豌豆の花揺るる蔭いきいきと島の農婦の手甲動く

下道日記町 榊原はる子
 天竹町 鈴木マツエ
 上羽角町 乙部 妙子
 鳥羽町 谷口壽々榮
 永吉町 石川 英一
 天王町 高松 満子
 吉良町 鈴木かおり
 永吉四丁目 小野田みよ子
 下羽角町 濱嶋 君江
 和気町 犬塚 房江
 一色町 粕谷 弘子
 深池町 柘植 美苗
 鵜ヶ池町 富永 幸子
 花蔵寺町 三浦 貞子
 江原町 村松 覺
 下永良町 榊原さちよ
 楠村町 小島日出世

川柳



特選

夫元氣ダイヤに勝るお年玉

吉良町 尾崎サカエ

入選

杖代わり孫の肩借り初詣
 お年玉ねだる孫には呆けたふり
 母の手の握力に見る生きる意志
 買初のコンビニで足る老ひ暮らし
 ご馳走もメタボ哀しや配給に
 戦無き平和に感謝初み空
 老の春忘れ上手を胸に決め
 老人と言われ横向くおらが春
 冬の鍋輪になり食べる大家族
 背丈のび見上げる孫に髭もあり
 遠き日の思いで話初電話
 年重ねシワシミ共に仲好ね
 観る気などないテレビ観て寝正月
 毘寿の妹笑えば見える糸切歯
 丸餅が恐れて通る老いの喉
 難聴の声に張りある初電話
 消防士隊列凜々し出初式

矢曾根町 佐藤 哲也
 丁田町 川口 實
 鵜ヶ池町 山本 洋子
 花蔵寺町 三浦 貞子
 巨海町 水野 謙二
 下永良町 榊原さちよ
 駒場町 信川 芳枝
 下羽角町 濱嶋 君江
 住吉町 松川はるみ
 中畑町 塩谷 直子
 貝吹町 磯貝きみ子
 中畑町 稲垣 洋子
 巨海町 岩瀬 勇
 和気町 犬塚 房江
 住吉町 松川 勝弘
 家武町 神取 和子
 幸町 吉見 ひで